



（写真）Con El Mazo Dando “5月25日の国会議員、州知事・州議会議員選 与党連合が圧勝”

2025年5月23日（金曜）

政治

- 「[マドゥロ政権 ファン・パブロ・グアニパ氏逮捕](#)
～選挙妨害テロリストで麻薬密売に関与？～」
- 「[5月21～23日に外国人含む70人拘束](#)」
- 「[麻薬密売犯逮捕 コカイン700キロ超を押収](#)」
- 「[グアニパ氏の逮捕に国内外から批判殺到](#)」

経済

- 「[Chevron 制裁ライセンス巡り米政府内で亀裂](#)
～税制・歳出法案の賛成とライセンスを取引？～」
- 「[カラカス証券指数 5カ月で147%増](#)」
- 「[パナマ便再開 Copa チケット代132ドル～](#)」

25年5月24-25日（土・日）

政治

- 「[国会議員・州知事・州議会議員選 与党圧勝](#)
～投票率42.6%、カプリレス元知事当選～」
- 「[州知事選 24州中23州は与党候補が当選](#)
～野党候補の当選はコヘーデス州のみ～」
- 「[選挙当日の様子 投票者はいたのか？](#)
～目立った治安の悪化はなく、平穏に終了～」
- 「[在ベ亜大使館脱出者 ルビオ国務長官と面談](#)」

経済

- 「[Chevron 最低限の設備維持に切り替えか](#)
～アンソアテギ州 Chevron 活動が最小限に～」

2025年5月23日（金曜）

政治

「マドゥロ政権 ファン・パブロ・グアニパ氏逮捕
～選挙妨害テロリストで麻薬密売に関与?～」

5月23日 ディオスダート・カベジヨ内務司法相は、国内の治安を脅かす犯罪グループを拘束したと発表。

同グループのトップとして「第一正義党（PJ）」のファン・パブロ・グアニパ氏を拘束したと発表。逮捕した時の動画を公表した。

グアニパ氏は、主要野党に属する政治家の中で特にマリア・コリナ・マチャド氏（MCM）と関係が近い人物。MCM氏の選挙キャンペーンの際は、多くの演説に同行していた。また、24年7月28日の大統領選挙以降はMCM氏と同様に公共の場に姿を現していなかった。

グアニパ氏は、スリア州を拠点とする政治家で、2017年10月に行われた州知事選ではスリア州知事選に出馬し、当選した。

しかし、マドゥロ政権が強硬に発足した制憲議会に対して知事就任を宣誓するよう求められたが、グアニパ氏は制憲議会での知事就任宣誓を拒否。スリア州知事選はやり直されることになり、最終的に与党候補が当選した。

なお、当時の州知事選で当選した他の4人（メリダ州、ヌエバエスパルタ州、トゥルヒージョ州、アンソアテギ州）の野党候補は制憲議会での知事就任を宣誓し、知事に就任した。

この経緯からも分かる通り、グアニパ氏は主要野党の中でも急進的なグループに属する政治家でMCM氏の方針と近い人物である。

カベジヨ内務司法相によると、グアニパ氏を逮捕したのは5月23日早朝。5月25日の国会議員、州知事・州議会議員選を妨害する計画を企ており、その資金源として麻薬取引に関与していたという。

また、グアニパ氏を逮捕した際に携帯電話4つ、ノートパソコン1台、手帳などを押収。押収物の中には選挙妨害計画に関する情報が含まれていたという。

加えて、同オペレーション実施中に5つの手りゅう弾を発見。カベジヨ内務司法相は、これらの手りゅう弾は、選挙を妨害するためにスリア州の警察施設・病院などの公共施設を攻撃する目的で用意されたものと訴えた。

グアニパ氏は逮捕された際に自身のソーシャルメディア・アカウントにメッセージを投稿。

「自分が拘束された唯一の理由は、マドゥロ政権がベネズエラ国民を恐れているからである。マドゥロは7月28日に国民が示した意思を恐れている」

「しかし、ベネズエラ国民の自由を求める精神を折ることはできない」「この先の私がどうなるかは分からないが、いつか自由になることを知っている」「私は理不尽にも刑務所に送られることになるが、決して負けない」と投稿した。



（写真）VTV

“逮捕された当時のファン・パブロ・グアニパ氏”

「5月21～23日に外国人含む70人拘束」

前述のオペレーションで拘束されたのはファン・パブロ・グアニバ氏だけではない。

カベジヨ内務司法相は、「5月21日～23日にかけて、急進野党および麻薬密売犯と関係がある70人の関係者を拘束した」と発表した。

カベジヨ内務司法相は拘束した70人の名前を公表していないが、非政府系団体「la organización Justicia, Encuentro y Perdón (JEP)」は、5月21日に拘束されたとされる30人の名前を公表。

逮捕者の中には、政治活動家、人権保護活動家、記者、地元の市民リーダーなどが含まれると指摘した。

jepvzla と rosamorozco
7,689 フォロワー

プロフィールを表示



（写真）JEP

“マドゥロ政権が拘束したとされる活動家リストの一部”

また、逮捕者の中には外国人も含まれると補足。セルビア人、アルゼンチン人、コロンビア人らを拘束したと述べた。

「麻薬密売犯逮捕 コカイン700キロ超を押収」

国家麻薬対策監督局の Danny Ferrer Sandra 局長は、コカイン密売を行っていた5人の密売犯を拘束したと発表した。

Sandra 局長によると、押収したコカインの量は700キロ超だったという。

カベジヨ内務司法相も外国と協力し、コカイン密売グループを摘発したと発表。

カベジヨ内務司法相は、エクアドルのダニエル・ノボア大統領について言及。ノボア大統領が麻薬密売に関与していると訴えた。

カベジヨ内務司法相によると、麻薬密売犯は野菜や果物と偽り、港から麻薬を密輸しており、ノボア政権はこの事実を知りながら賄賂の見返りに麻薬密売を容認していると主張した。



（写真）ベネズエラ内務司法省

「グアニパ氏の逮捕に国内外から批判殺到」

5月23日に拘束されたファン・パブロ・グアニパ氏は、選挙ボイコットを支持する野党政治家の序列としては、MCM氏、エドムンド・ゴンサレス候補に次いで3番目に重要な人物と言える。

今回のグアニパ氏拘束を受けて、ベネズエラ野党および米国政府からマドゥロ政権への批判の声が挙がっている。

主要野党を中心とする「統一プラットフォーム (PUD)」は声明を発表。

「政治を行うことは犯罪ではない」と訴え、ベネズエラに平和と持続可能な民主主義をもたらすための透明性のある公式な交渉を実施するよう求めた。

MCM氏も「マドゥロ犯罪組織がファン・パブロ・グアニパを誘拐した」「50人以上の政治・社会リーダー、人権活動家、ジャーナリストを誘拐し、全国で残虐な弾圧を行った」「グアニパ氏は勇敢で誠実な人物で私の友人であり、同士である」「彼は政治リーダーの手本となる人物」と投稿した。

また、ベネズエラを管轄する米国大使館もグアニパ氏の拘束を批判する声明を発表。

「本日、マドゥロ政権は、自由ではない選挙の前日に、司法を乱用し、ベネズエラの重要な声を恣意的に沈黙させた」と主張。

他、5月25日の選挙に参加している「新時代党 (UNT)」やエンリケ・カプリレス元ミランダ州知事などもグアニパ氏の拘束を批判した。

経 済

「Chevron 制裁ライセンス巡り米政府内で亀裂
～税制・歳出法案の賛成とライセンスを取引?～」

前号「[ベネズエラ・トゥデイ No.1220](#)」で紹介した通り、トランプ政権内でマドゥロ政権との交渉役を務めている Richard Grenell 特使は、
「トランプ大統領は、信頼が形成されるような進展があれば、それ (Chevron の制裁ライセンス) を更新することを許可した」と言及。

マドゥロ政権に拘束されていた米国人 Joseph St Clair 氏の解放を受けて、Chevron の制裁ライセンスが更新されると示唆した。

しかし、Grenell 特使の発言を受けて、マルコ・ルビオ国務長官は自身のソーシャルメディア・アカウントに「ベネズエラに関するバイデンとマドゥロの石油ライセンスは、予定通り5月27日に失効する」と投稿。
Chevron の制裁ライセンスが失効するとの認識を示した。

本件について、複数のメディアが、ルビオ国務長官を筆頭にフロリダ州の共和党下院議員 Carlos A. Giménez 議員、Mario Díaz-Balart 議員、María Elvira Salazar 議員らが Chevron の制裁ライセンス更新に反対を示していると報道。

これらの議員は、Chevron の制裁ライセンスが更新された場合、トランプ政権が提案した税制・歳出法案を承認しないとの姿勢を示したという。実際に5月21日に Mario Díaz-Balart 議員は「(Chevron の制裁ライセンスが) 更新された場合、法案は可決されないだろう」と言及していた。

トランプ政権は、下院議会で税制歳出法案を可決させるために全ての共和党議員の賛成が必要となる。そのため、トランプ政権が政権運営を円滑に進めるためには3人の賛成が不可欠となっている。

なお、この法案は5月22日に賛成215票、反対214票で下院にて可決された。

「Chevron 最低限の設備維持に切り替えか」にて後述するが、トランプ大統領と制裁ライセンス失効支持グループは一定の合意に至ったと噂されている。

「カラカス証券指数 5カ月で147%増」

日本で言えば「日経平均株価」に相当するベネズエラの代表的な株価指数「カラカス証券指数 (IBC)」の5月23日の終値は295, 372. 97ポイント。

2025年の最初の IBC は119, 380. 6ポイントだったため、5カ月間で175, 992. 31ポイント（147. 42%）上昇したことになる。

なお、「ベネズエラ金融観測所 (OVF)」によると、2025年1～4月の累積インフレ率はボリバル建てで63. 1%（「[ベネズエラ・トゥデイ No.1213](#)」）。

IBC の上昇率がインフレ率を大きく超えていると言える。

「パナマ便再開 Copa チケット代132ドル～」

5月23日 10か月ぶりにパナマ～ベネズエラ便が再開した。

最初に両国の国際線を再開させたのはベネズエラの航空会社「Venezolana de Aviacion」である。

また、「Aerolínea Estelar」も5月27日（火曜）からパナマ～ベネズエラ路線の運航を再開する。

日本人駐在員にとって最も利用する可能性が高いのはパナマ系航空会社「Copa Airline」だろう。

「Copa Airline」も5月27日（火曜）から運航を再開する。27日の運航予定は以下の通り。

14時46分カラカス発→18時11分パナマ着
19時21分パナマ発→20時47分カラカス着

なお、27日のチケット価格（片道）は以下の通り。

- ・エコノミークラス：132. 2ドル
- ・エコノミー・クラシック：181. 3ドル
- ・エコノミー・フル：642. 2ドル

Copa Airline は5月27日～6月22日までは週1便で運航。6月23日からは週2便で運航する予定となっている。

2025年5月24日～25日（土曜・日曜）

政 治

「国会議員・州知事・州議会議員選 与党圧勝
～投票率42. 6%、カプリレス元知事当選～」

5月25日 国会議員・州知事・州議会議員選が開催された。

同日23時40分 「選挙管理委員会 (CNE)」は、同選挙の一次速報(開票率93. 01%時点)を発表した。

同選挙の投票率は42. 63%。

国会議員選について、与党連合「偉大な愛国者連合（Gran Polo Patriótico）」の得票率は82.68%（455万3484票）。

穏健野党連合「民主主義同盟（AD）」の得票率は6.25%（34万4422票）。

主要野党から離反した「UNT／Unica」の得票率は5.18%（28万5501票）。

独立野党「隣人の力（FV）」の得票率は2.57%（14万1566票）だった。

以下は当選が確定している主要な国会議員である。

<与党> Jorge Rodríguez, Cilia Flores, María Iris Varela, Jorge Arreaza, Desiree Santos Amaral, Ilenia Medina, Didalco Bolívar, Wilmar Castro Soteldo, Jose Gregorio Vielma Mora, Juan Escalona

<穏健野党> José Bernabé Gutiérrez Parra, Timoteo de Jesús Zambrano Guedes, Alfonso, Enrique Campos.

<UNT／Unica> Henrique Capriles Radonski, Luis Emilio Rondón Hernández, Iván Stalin González Montaña

Elecciones de gobernadores y gobernadoras 2025



“赤色は与党候補が当選した州、
青色は野党候補が当選した州”

表：各州の当選結果（右の％は当選候補の得票率）

Amazonas	Miguel Rodríguez	76,03%
Anzoátegui	Luis Marcano	87,3%
Apure	Wilmer Rodríguez	96,19%
Aragua	Joana Sánchez	86,92%
Barinas	Adán Chávez	72,45%
Bolívar	Yulisbeth García	87,85%
Carabobo	Rafael Lacava	87,68%
Cojedes	Alberto Galíndez	55,22%
Delta Amacuro	Loa Tamaronis	94,13%
Falcón	Víctor Clark	83,17%
Guárico	Donald Donaire	93,15%
Guayana Esequiba	Neil Villamizar	97,4%
La Guaira	José Alejandro Terán	90,65%
Lara	Luis Reyes Reyes	90,95%
Mérida	Arnaldo Sánchez	80,89%
Miranda	Elio Serrano	83,2%
Monagas	Ernesto Luna	94,55%
Nueva Esparta	Marisel Velásquez	55,33%
Portuguesa	Primitivo Cedeño	93,61%
Sucre	Jhoanna Carrillo	94,4%
Táchira	Freddy Bernal	80%
Trujillo	Gerardo Márquez	91,86%
Yaracuy	Leonardo Intoci	89,83%
Zulia	Luis Caldera	64,65%

（写真） Ultimas Noticias

「州知事選 24州中23州は与党候補が当選
～野党候補の当選はコヘーデス州のみ～」

CNE は州知事選の結果を公表。一次速報の時点で全国24州の当選者が全て確定している。

結果は、全国24州中23州は与党候補が当選。
野党候補が当選したのはコヘーデス州（Alberto Galíndez 候補、再選）のみだった。

前回（2021年）の州知事選では4州（コヘーデス州、バリナス州、スリア州、ヌエバエスパルタ州）で野党候補が当選したので、野党側からすると3州の知事を失ったことになる。

なお、2021年の州知事選は、野党の主要グループが選挙ボイコットをしていなかったため、21年の選挙よりも野党側が苦戦するのは自然と言える。

「選挙当日の様子 投票者はいたのか？」

～目立った治安の悪化はなく、平穏に終了～

個人的な感触としては、今回の投票の結果（与党が圧勝する）は妥当だが、投票率42.6%という結果については少し多すぎるのではないかという印象を受ける。

恐らく同様の印象を受ける人は多いことだろう。

今回の選挙の有権者数は約2150万人とされており、投票率42.6%ということは約915万人が投票したことになる。

しかし、与党連合「偉大な愛国者連合（Gran Polo Patriótico）」の得票数が455万3484票で、得票率が82.68%ということは、総投票数（得票率100%）は約550.7万票ということになる。

仮に有権者数2150万に対して、550.7万人が投票した場合、投票率は25.6%になる。

なお、カラカス首都区の有権者は、州民ではないので、州知事選の投票権がない。これが理由で有権者の母数を減らして計算したのかもしれないが、CNE がどのような計算根拠で投票率42.6%という数字を出したのか現時点では分からない。

なお、現地メディアでは選挙当日の様子について「閑散としている」と報じるメディアが多かった。

以下に当日の投票所の様子を写真付きで報じたメディアの写真を掲載したい。



（写真） El Estimulo



（写真） Al Navio



（写真） El Nacional

一方で、国営報道 VTV や与党支持系のメディアでは、多くの有権者が投票所で並んでいる様子を紹介している。



（写真）VTV “ポルトゥゲサ州投票場”



（写真）VTV “グアリコ州投票場”



（写真）VTV “トゥルヒージョ州投票所”

どのメディアでも一致していた点としては、同日の選挙では目立った政治的な衝突はなく、平和な環境で選挙を終えたということだろう。

今回の結果を受けて、抗議行動が拡大するなど治安が悪化する可能性は低そうだ。

「在ベ亜大使館脱出者 ルビオ国務長官と面談」

5月6日 在ベネズエラ・アルゼンチン大使公邸で保護されていた急進野党の関係者5名が解放され、米国に移動した（「[ウィークリーレポート No.406](#)」）。

本件について、マドゥロ政権側は「米国政府との交渉の結果、外国に移動させることで合意した」と説明。一方、野党側は「救出オペレーションの成果」と説明しており、マドゥロ政権と交渉することなく、救出に成功したと主張している（「[ベネズエラ・トゥデイ No.1215](#)」）。

この5名は米国に移動以降、ほぼメディアに露出していなかったが、5月23日に米国のマルコ・ルビオ国務長官と面談。初めて5人そろってメディアに姿を現した。



（写真）ルビオ国務長官 X

翌24日 米国に移動した野党関係者5名は記者会見を実施。

MCM氏の右腕とされている Magallí Meda氏(下写真、中央の女性)は

「我々は412日も監禁されていた」「このような状況でまだ交渉が存在したと信じさせようとしている」とコメント。5人が米国へ移動するに当たり、マドゥロ政権との交渉はなかったとの認識を示した。

ただし、具体的にどのような手段で米国へ移動したのか詳細については語らなかった。

また、Meda氏はChevronの制裁ライセンスについて「マドゥロ政権の資金の流れを全て断ち切らなければならない」「彼らに資金を流すことは犯罪組織に加担することを意味する」「仮にChevronがベネズエラの犯罪システムを前進させようとするのであれば、Chevronが犯罪組織であることを受け入れなければならない」と主張。

Chevronの制裁ライセンスは失効させる必要があるとの見解を示した。



(写真) @ConVzlaComando

経 済

「Chevron 最低限の設備維持に切り替えか
～アンソアテギ州 Chevronの活動が最小限に」

「Bloomberg」は、OFACがChevronに対して新たな制裁ライセンスを発行する準備を進めていると報じた。

Bloombergによると、新たな制裁ライセンスは「Chevronに対してベネズエラ国内の最低限の設備メンテナンスと従業員らの安全を保障するための活動のみを許可する」という内容だという。なお、Chevronの制裁ライセンス失効を求める共和党下院議員グループもこの条件で納得していると噂されている。

これは実質的にChevronの制裁ライセンスを2022年11月以前の状況に戻すことを意味する。

つまり、Chevronはベネズエラ国内で産油活動を行うことが禁止され、米国向けに原油を輸出することが禁止される。Chevronが産油活動を停止すれば、産油量は大きく減少し、ベネズエラ国内への外貨流入が減少。ベネズエラ経済が悪化することを意味する。

「ベネズエラ経団連 (Fedecamaras)」アンソアテギ支部のMarco Tulio Salazar 副代表は、「現在のChevronの活動が最低限の水準まで縮小している」とコメント。Chevronが事業撤退の準備を始めているとの懸念を表明した。

また、Marco Tulio Salazar 副代表は

「Chevronはベネズエラ国内で多くの設備を有している」「これらの設備はChevronが事業を撤退しても国外に運ぶことは出来ない」「最低限のメンテナンスを行うことになるだろうが、それだけでは地域の経済が求める投資水準に至らない」との見解を示した。

以上